

令和の萬古焼

四日市市の伝統産業のひとつ、萬古焼。特に萬古土鍋は、国内における土鍋のシェア80%を誇るほど。ですが、私たちの暮らしも時代ごとに変化します。携わる皆さんを取材することで改めて令和の時代における萬古焼について考えます。



萬古陶磁器振興協同組合
連合会 理事長
藤井 健司さん

暮らしに身近な焼き物
四日市が誇る萬古焼

江戸時代中期、桑名の豪商・沼波弄山が三重県朝日町に窯を開いたことが、萬古焼の始まり。「萬古焼は急須や土鍋、食器など生活に身近なものが多く、高級ではなく、昔から庶民の暮らしのそばにあった焼き物です」と、萬古陶磁器振興協同組合連合会の藤井健司理事長は教えてくれます。

うご家庭での熱源が薪からガスコンロへ移行していた時期でした。ペタライト入りの萬古土鍋は高火力によるガスでの使用でも割れにくいと評判を呼び、萬古焼Ⅱ土鍋というイメージが確立されました。

作れば売れる時代からファンが必要な時代へ

「今では都市部ほど、ガスコンロから電気を用いたIHクッキングヒーターを熱源にする家庭が増えていきます。数秒で高温になるIHクッキングヒーターには従来の萬古土鍋では割れてしまふ。新しい熱源への対応は、萬古焼業界全体としての課題」と藤井さん。自身も「藤総製陶所」の代表であり、2008年のリーマン・ショックを機に、各窯元や買い付けを行うメーカーが「自分の武器がないと生き残れない」と実感したのではと振り返ります。

萬古焼で食器や工業製品を作れば、買い手が自然とついていった時代ではなくなりしました。窯元、そしてたくさんの商品をラインナップするメーカーは、自分たちの色を出してファンを作らなといけません。実際、藤井さんも自身のお茶好きが高じて、おいしくお茶を淹れられることに特化した急須を商品化。テレビにも取り上げられる看板商品になりました。「数社だけ生き残つてもだめ。みんなが商売を続けられないと産地とは呼べません」と話す藤井さんは、焼き物産地としてみんなで萬古焼を盛り上げようと奮闘。2007年から始まった萬古焼の技術者を育てる「やきものたまご創生塾」こと、略してやきたまは、自治体ではなく業界が運営する研修事業として10年以上続き、これまでに57名が修了しています。

人の暮らしが変化し続けた300年もの時代。萬古焼は、それに対応して今日まで受け継がれてきました。令和の時代に試行錯誤するメーカー、窯元の皆さんが新しいファンの開拓に力を注ぎます。



ばんこの里会館
住所／四日市市陶栄町4-8
電話／059-330-2020
営業時間／10:00~17:00
定休日／月曜・夏季・冬季休業期間休館※祝日を除く



カジュアルな
テイストの盆
栽は若い人た
ちにも人気



盆栽体験は地元のイベントへの出展だけでなく、小学校向けの出張体験も実施

鍋は人を取り持つ存在

大胆なコンセプトを模索して 銀峯陶器株式会社

住所／四日市市三ツ谷町13-25
電話／059-331-2345 <https://ginpo.co.jp/>



職人が一つひとつ手作業で加工しています

銀峯俱樂部では鍋料理以外の料理の提案してくれます



1 932年に創業した銀峯陶器。土づくり、釉薬の調査、そして焼成まで一貫生産にこだわる、萬古焼の耐熱食器専門メーカーです。銀峯陶器が作り続けるのは土鍋。「これまでにあった土鍋の概念を変えたい」との思いを、なかでも若い世代に強く発信して、土鍋を使って料理が簡単に美味しく、楽しくなる提案を行ってきました。たとえば夏はキッチン

「鍋は人と人の仲を取り持ち、そしてテーブルの中心にある存在です。身近な人との時間を大切にする手助けができれば」と代表の熊本哲弥さん。萬古焼そのものも七輪、ガス、IHと時代に合わせ火源に対応してきました。メーカーならではの蓄積したノウハウ、大胆な発想力を組み合わせて「温もりの創造」を目指す銀峯陶器。土鍋・陶器という枠組みを自由に飛び越えて、新しい萬古焼の提案にチャレンジし続けます。

EVENT INFORMATION
創業90周年 記念感謝祭
10月9日(日)開催予定
銀峯俱樂部のイベント情報はInstagramにて

例えば、こんなところにも萬古焼き！

萬古焼で盆栽の魅力伝える 鉢マニア 株式会社森三

住所／四日市市万古町2-22 電話／059-331-1191(盆栽体験は要事前予約)
営業時間／9:00~17:00 定休日／日曜、祝日、第2・4土曜
<https://hatimania.com>

植木鉢は植物の洋服！

この夏より
Instagramを先行開設。
「海外や県外からの問い合わせが多く、四日市から世界を繋ぐ架け橋となれば」とオーナー

ハチーハチ
HACHI-8
12月中旬OPEN
予定

萬

古焼による植木鉢専門メーカーという、ユニークなコンセプトで2007年から営業している、鉢マニア。「植木鉢Ⅱ植物の洋服」という考えのもと、植物に適した鉢を選ぶときの選択肢(種類・サイズ)を広げるため、常に豊富なラインナップを用意しています。

商品はギャラリーショップやウェブ上で注文可能で、なかでも評判が四日市本店で実施している盆栽体験です。松を中心としたさまざまな苗木が用意されているので、好みの鉢を選んでから盆栽体験ができます。「世界に一つだけの盆栽を創る楽しさ、完成した時の喜びを味わっていたいだき」と思っていたことが盆栽体験を始めたきっかけ」と、鉢マニアの森さん。自身

も祖父や父母が萬古焼に携わっている姿を見て、家業を継ぐ決意を固めました。盆栽作りという体験をプラスして、萬古焼の魅力を発信し続けます。

ただ、萬古焼の植木鉢メーカーは年々、減少傾向。それでも盆栽体験を機に、本格的に萬古焼の植木鉢を学び、触れたいと入社してくれた若いスタッフもいるそう。盆栽体験や植木鉢の販売を通して、若い人たちの価値観を変えるきっかけになれば、と活動を続けます。